

## 会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成27年度 第1回磐田市在宅医療介護連携推進協議会
担当部課名	健康福祉部 健康増進課
会議の開催日時	平成27年6月10日(水) 午後7時00分～8時30分
会議の開催場所	磐田市総合健康福祉会館 (iプラザ) 2階 ふれあい交流室2
出席者(職・氏名)	委員：別紙12名中12名出席 事務局：別紙12名中12名出席
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 部長挨拶</li> <li>4 委員自己紹介</li> <li>5 会長・副会長選出</li> <li>6 会長挨拶</li> <li>7 議事・協議             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業についての説明</li> <li>(2) 意見交換</li> </ol> </li> <li>8 その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2回協議会について</li> </ol> </li> <li>9 閉会</li> </ol>
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前配布資料             <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催通知</li> <li>・在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.1</li> <li>・在宅医療と介護の連携推進に関する事例集</li> <li>・参考資料</li> <li>・告示33 在宅医療介護連携推進協議会要綱</li> </ul> </li> <li>○当日配布資料             <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員名簿</li> <li>・第7次高齢者保健福祉計画 第6次介護保険事業計画</li> <li>・みんなのあんしん介護保険</li> </ul> </li> </ul>
1. 開会	健康増進課長
2. 委嘱状交付	代表で磐田市医師会 岩瀬正紀委員へ交付
3. 部長挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回磐田市在宅医療介護連携推進協議会に出席くださったこと、日頃の健康福祉行政へのご理解・ご協力に対し、お礼。</li> <li>・団塊の世代の方々が75歳以上になる2025年、色々と課題が多いだろう。</li> <li>・介護保険法が改正され、介護保険の中で地域支援事業、その中で在宅医療・介護の連携ということが示されてきている。平成27年4月から取り組めるものについてはスタートし、30年4月には、すべての市町村が事業を推進するという事になっている。</li> <li>・協議会は、1つの事業として位置付けられていて、地域の課題の抽</li> </ul>

<p>4. 自己紹介</p> <p>5. 会長・副会長 選出</p> <p>6. 会長挨拶</p> <p>7. 議事</p>	<p>出、課題を解決する方策等についてこの会議の中でご意見を伺っていき、という主旨で開催。</p> <p>各委員・事務局自己紹介</p> <p>要綱第4条により、1名ずつ互選により選出された。 会長：北原大文委員 副会長：田ノ井千春委員</p> <p>・今月に入り、在宅医療・介護関係の会議が4つある。 ・診療所単位ではやれない、行政が入っていただかなければ、訪問看護等色々な職種が介入しなければならない状況になってくると思うので、ここで頑張らなければならない。 ・医師会は、みんながみんな在宅をやろうというわけではないが、何とか盛り上げていこうと、体制を作っていけたらなと思うので、今後ともよろしくお願い致します。</p> <p>要綱第5条により、進行は会長</p> <p>(1) 事業についての説明 スライドを使い、事務局より説明（以下、概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢区分別人口の推移と、磐田市の将来像について説明</li> <li>・「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。</li> <li>・磐田市では、健康福祉部と病院地域医療連携室で、課・グループを超えた班を編成し、事業を推進している。</li> <li>・在宅医療・介護連携推進事業については、8つの事業があり、平成30年4月には、すべての市区町村で実施し、原則として8つすべての事業項目を実施することとなっている。</li> <li>・8つの事業項目について、今年度は、MAPの作成とこの会議の開催、住民への啓発として12月5日もシンポジウムの開催、多職種間交流研修プロジェクトの実施を進めている。</li> <li>・この協議会においては、まだ取組めていない事業について、主に意見を出していただき、方向性を協議していただく役割をもっている。</li> <li>・今回の会議では、「在宅医療・介護連携相談窓口」について、取り上げます。</li> </ul> <p>(2) 意見交換 ○相談窓口について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会の状況として、在宅医療をやっている先生をいかに充足させるか課題なので、医師会でやるのは困難だと思う。</li> <li>・「在宅医療・介護連携推進事業の手引き」にあるが、医療・介護の関係者からの相談を受け付けるということを想定。住民等からの相談は、地域包括支援センターで受け付けるというのが基本。</li> <li>・コーディネーターというのは、かなり重要。</li> </ul>
--	---

- ・公平性が大事。公的なところでやってもらうのがよい。
- ・相談しやすいということを考えると、公的な機関のなかにあった方がよい。
- ・人材育成をする、というところが大事なポイントになる。人材育成の場として、どこがふさわしいのか、実際にコーディネート機能を発揮するので、効率性、公平性が保たれる、そういった視点から人材育成をするのがよい。

#### ○マップについて

- ・今想定しているのは、高齢者の方に配布を考えているが、高齢者の方が必要な情報をのせていく、かつ見やすいものを作っていければと考えている。
- ・医療機関や介護施設などを考えているが、数が多いので、そこは考えて作成していきます。

#### ○訪問歯科について

- ・訪問歯科のニーズは増えてきていて、歯科医師会として依頼はきてはいるが、実際には受け入れる体制や窓口がないので、個人事業所としてやっている先生方がそれぞれでやっている。やっている先生のところ集中している。
- ・在宅でということになると、県歯科医師会で器械の購入について半分助成するというものが昨年からは始まったが、手挙げ方式で全員には渡っていない。十分にやっていくためにはもう少しかかっている。

#### ○訪問薬剤指導について

- ・今、医療費削減に残薬の整理が必要と言われていて、薬剤師の中でも、残薬は問題、という意識があり、在宅で残薬の整理をしていくことが必要ではないかと思う。
- ・飲み方が分からない人に、カレンダー式のものにセットしている。訪問看護もやっている。

#### ○地域ケア会議について

- ・個別の地域ケア会議をやっていて、その方の課題を解決できるように、月1回以上は開くようにやっている。
- ・先進事例では、困難事例を議論することでレベルが上がってくるということもあるよう。

#### ○ICTについて

- ・市内でやっているのが「ふじのくにネット」と「静岡県版在宅型ネットワーク」というものが始まっている。
- ・県医師会が、基金を使っているが、そのまま続けられるようにしていきたいが、将来的なことまでは確実にはわからない。
- ・継続性は重要

<p>8. その他</p> <p>9. 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全く関係ない人に情報がいくことはないので、セキュリティの面では、メリット。</li> </ul> <p>○全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源に関するデータができていないので、どういう資源があって介護資源があって、介護を含めて共有していくためにはどうしたらいいか、議論できたら。</li> <li>・なぜこの事業をやるか、それが十分かというのをこの場で議論するのが1つの目的だろう。全国的な社会の流れからこの事業を進めるといことと、磐田市固有の地域性、それには先ほどの医療資源、介護資源からくる事業というのは分けて、考えるとわかりやすいと思う。</li> <li>・市民の啓発について、予防に関する話をこれからは特にしていかなければ、とてもこの医療資源、介護資源では足りなくなる。市民自らが予防することの必要性をもっと啓発していかなければならない。</li> <li>・磐田市含めてこの静岡県は災害、自然災害が切羽詰った問題と言われている。在宅を考えたときに災害発生時にどうするのかということが問題で、将来的には災害発生時に在宅患者さんの対応をどうするのかという仕組みを考えていくと、磐田市がどうすれば安心して過ごせるかとう話になるのでは。そこまで視野を持って考えるとよいのでは。</li> <li>・市民には、わかりやすい言葉で伝えること。</li> <li>・今までは行政や病院などに依存していて、やってくれるのが当たり前という感覚をもっているかと思うが、これから支えてもらう側ではなくて支えていくんだということの啓発をやっていかなければならない、みんなで支えあっていく地域づくりをしていくということをし、しっかりやっていきたい。</li> </ul> <p>9月9日（水）19時から、ふれあい交流室</p>
<p>備 考</p>	